

社会科学学習指導案

平成15年11月20日(木)第5校時

第1学年A組 指導者 阿部 亮一

授業の視点

付箋を使用し、KJ法的な分類方法を課題作りのための疑問点の整理場面で取り入れたことは、生徒が課題をつくる場において思考を助ける手段として有効であったか。

1、題材名 「身近な地域の調査」 東京書籍版教科書P45～62

2、考察

(1) 生徒の実態(男子12人、女子11人)

(2) 学級の特徴

日常の授業における観察や事前のアンケート調査の結果からとらえた本学級の生徒の本題材に関する実態は次の通りである。

まず、地理学習に関する興味・関心では、「好きである」と答えた生徒は4人と少なく、やや苦手意識を持っている。しかし、「調べたいことを決めて、調査する活動は好きですか。また、やってみたいですか。」という問いには、15人の生徒が「やってみたい」と答えているように課題を設定しての取組についてはおおむね高い関心を持っている。

思考・判断に関しては、「図や写真から読み取ったことをノートにまとめる活動」等はできるが、「自分の考えや意見を書く活動」や「班で考えをまとめる活動」では、多数の生徒が戸惑いを見せたり、他のできる生徒や教師の答えを待っている様子が見られる。その反面、「話を聞くこと」については大変よく集中できている。

資料活用の技能・表現に関しては、表の作成やレポートの作成など簡易な作業は得意であるが、複数の資料を組み合わせたり、調べた内容を効果的に表現することができる生徒は数名である。また、自分の意見やまとめを発表することを嫌う傾向が強い。学習態度はまじめであるが、発表や発言することが苦手というクラスの特徴が分かる。したがって、今後も課題を設けて、その課題解決の結果を発表しあう学習を多く経験させたい。

知識・理解に関しては、川場村の位置や自然の豊かさ、河川や水利に恵まれていることなどの自然の特徴、農業が盛んなこと、農作物では特に果物や米、こんにゃくの栽培が多いことなど産業等についての基礎的な知識は身に付いている。また、調べる方法として地図を利用することや調査方法なども多くの生徒が知っていた。しかし、農業と自然との関連について聞くと、「自然に恵まれているから」とか、「農業がしやすいから」といった答えが多く、自然環境に適した産業としての農業や社会条件の変

化と新しい農業の展開など身近な社会的事象を通して社会的な考え方を身に付けさせるよう指導していきたい。

(2) 教材観

川場村は、群馬県の北東部に位置し、東は片品村・利根村・白沢村、西及び南は沼田市に、北は水上町に隣接し、武尊山（標高2,158m）の南に開けた盆地状をなしている。川場村の総面積の85%は山林原野に占められ、耕地は7%と狭小で、利根川の支流の薄根川と桜川の扇状地形の上に広がっている。冬には季節風による降雪があり、豊かな水と森を育んだ大自然を今でも残している山村である。

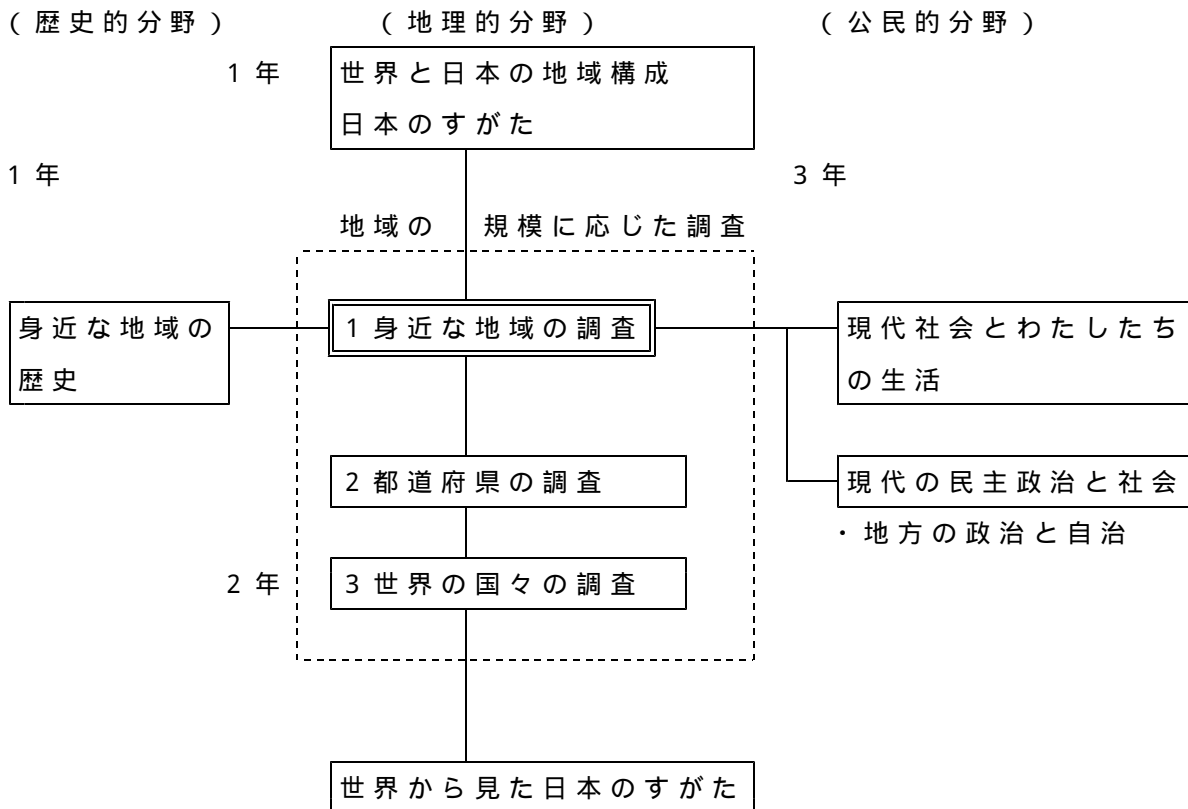
近年リゾート地域の指定により自然と共存した新しい時代に対応した開発が進み、都市と山村の交流活動を通し、地域に新しい文化の芽を育て、特色ある地域づくりを目指している。「農業プラス観光」を合言葉に、従来型の農業から農業に観光を結びつけた産業の育成が試みられ、果樹栽培や酪農、工芸作物や施設園芸などの農業も盛んになってきている。同時に、スキー場、世田谷区の保養施設や温泉旅館等の観光業や病院、老人介護施設といった社会福祉施設も立地してきている。また、全国的な傾向としての産業別就業人口の第二次、第三次産業就業者数の増加という現代的な社会構造の変化も見られ、周辺都市の産業に依存した問題点もある。このように川場村は、時代による産業の変化や気候・自然・環境条件に適した産業の発達、社会生活の変化といった地域的特色が見られ、学びの場としやすい地域といえる。

本題材の「身近な地域の調査」においては、生徒が日常生活の中で接している事象を地理的視点から見直し、地域を総合的に捉える学習が基本となる。地域の産業や生活の様子から地理的な問題を発見、解決していく学習過程において、地理的事象と自然条件との関係、社会的・文化的条件を考えることなど、地理的な考え方が身に付けられる。また、学習を進める上で地形図の読図や分布図の作図、統計の読み取りなどの基礎的な能力も必要であり、学習の意味は大きい。特に、地域学習をおこなう意味は、生徒の具体的体験を地理学習に生かし、学習への興味・関心を抱かせることができる点にあると言える。

そして、身近な題材から疑問を持ち、課題を考え、見通しを持って調査し、まとめて発表するという課題解決の学習過程を学びやすい題材でもある。アンケート調査の結果でも地理学習に対して苦手意識を持っているが、「調べてみたいことを決めて、調査する活動」をやってみたいと答えている生徒に対しての突破口になるのではないか。こういった視点から「身近な地域」を「地域の規模に応じた調査」の導入として扱うには適切な題材であると考えられる。

(3) 教材の系統

本題材に関しては、小学校の第3,4学年で地域の産業や消費生活の様子、地域の発展に尽くした先人の働きについて学習している。既習事項の中で活用可能な内容としては、「自分の住んでいる村の位置」（小4）や「身近な地域の観察や調査の方法、地域の具体的資料の活用方法」（小3・4）がある。



(4) 指導方針及び留意点

題材全体を通して

- ・ 本題材での地域調査は、帰納的な方法により地域を様々な観点から捉え、総合的に地域の特色を明らかにする学習である。課題追求の視点として、自然（気候、地形）、産業（伝統産業と現在の産業）、生活や文化を総合的に扱う。
- ・ 学び方に関して、情報収集、課題の発見、予想・仮説の設定、調査活動、検証・まとめの問題解決的過程を体験させる。

情報収集の場面

- ・ 情報収集に際しては、自分たちの意見や考えだけでなく、地域の人からの聞き取り調査、地形図の読み取り、統計資料の読み取り等、広い視点で調べさせる。
- ・ 課題の発見場面に生かせるよう、情報収集の場面から得た事実に関する疑問点や興味を思ったことを各時間ごとに付箋にまとめておく。

課題の発見の場面で

- ・ 生徒がまとめた疑問をKJ法的な手法で類型化を行い整理させる。そして、課題として集約化しまとめていく。
- ・ 立てられた課題が検証可能なものかどうかを、課題追求の視点や調査方法といった観点で判断させる。

予想・仮説の設定場面で

- ・ 仮説を立てるに際しては、社会的な考え方ができるよう課題追求の視点に立っているか、また、論理的な考察になっているかを生徒にアドバイスする。

調査活動の場面で

・インターネットや現地調査、読図、統計の活用など種々の資料活用方法から適切なものを選び、調査できるようにさせる。

・仮説の立証に必要な資料をあらかじめ把握しておき、適宜支援する。時間的な制約も考え、生徒自らで見つけれない場合には教師が資料を提示する。

検証・まとめの場面で

・調査して集めた客観的な事実と考察が、整合性があるか論理的かどうかを班で検証する活動を行う。

・仮説の検証結果を、分布図やグラフ、表にまとめさせたりすることによって、地図やグラフなどを的確に作成する技能や自分の考えをわかりやすく表現できる能力を高める。

・学習を通して高まった見方や考え方、知識や技能などを生徒自身で確認できるように、学習活動の状況を自己評価させたり、教師がよくできた点や新たに身に付けられた見方や考え方をワークシートに記述することで、自己のよさを見出させ、学習に対する関心・意欲を高められるようにする。

(5) 授業中における生徒指導

・活動の場面ごとに自己評価をおこなうなど、生徒の実態把握に努力し、知識理解に関する学習場面では補充や発展的な問題も用意し、個に対応した支援を行う。

・自分自身の立てた課題を解決していく学習過程で、各個人なりの力に応じた、適切な支援を心がけることで、最後まで自分の力でやり遂げたという達成感や充実感を味わわせる。

3、本題材の目標

身近な地域の諸事象を観察や調査する活動を通して、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方を身に付ける。

4、評価規準

〔社会事象への関心・意欲・態度〕

・身近な地域の景観に関心をもち、課題を見だし、意欲的に観察・調査している。

〔社会的な思考・判断〕

・身近な地域の特色を事象の位置や空間的な広がりや人々の生活を基に考察できる。

〔資料活用の技能・表現〕

・身近な地域の特色をとらえるために地図や統計などから情報を読み取ることができる。

〔社会事象への知識・理解〕

・地図のきまりを理解するとともに、身近な地域の特色を、事象の位置や空間的な広がりや人々の生活を基に理解している。

5、指導計画 12時間予定(本時は4時間目)

過 時 程 間	学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点 は努力を要する生徒への支 援 は発展的な支援	評 価 項 目 は充分満足できる状況 のキーワードやセンテ ンス
情 報 収 集	3 聞き取り調査から 川場村の特色をつか む。	家族や地域の人々の意見を 調査用紙に記入して調べ、集 計表を作成する。 自分の意見だけでなく、集 計結果を参考として川場村の 特色をつかませる。 「特色」をどうとらえたら いいか分からない生徒のため に、川場村のパンフレット写 真を使って一例を説明する。	聞き取り調査や集計結 果から川場村の特色をつ かんでいる。 < 関心・意欲・態度 > (活動の様子、ワークシ ート) 自分の意見と集計結果 から川場村の特色を書き 出している。
	地形図を用いて、 川場村の空間的な特 色をつかむ。	「地図の見方プリント」を 用意し、縮尺、地図記号、等 高線などの基本的な読図につ いて理解させる。 「地図の見方プリント」を やり直す。 地図の見方に関して、充分 理解した生徒には、教科書 p 47の「ためしてみよう」を させる。 地図の見方をもとに、2万 5千分の1の地形図を使って 川場村の空間的な特色をつか む。 ・地形的な特色(山地、河川) ・土地利用の特色 ・居住地の分布	縮尺や地図記号、等高 線等の基本的な読図につ いて理解している。 < 知識・理解 > (活動の様子、地図の見 方プリント、ワークシ ート) 地形図の見方に基づい た表現方法で川場村の空 間的な特色をつかめる。 ・山地が多い。 ・耕地周辺の道路がごぼんの目のよ うになっている。 ・耕地は、水田や畑が多い。 ・果樹園は中野・萩室に多い。
課 題 本 時 の 発 見	1 調べたい内容を整 理して、課題を設定 する。 (学習テーマ：川場 の特色を調べて、世 田谷の人たちに伝え	自分の調べてみたい内容を KJ法的手法で整理させ、 「川場の特色を調べて、世田 谷の人たちに伝えよう。」と いうテーマでにあった課題を 1つ作らせる。	調べたい内容を社会的 な見方(自然、産業、文 化や生活)に立って分類 し、調査可能な課題を考 えている。 < 思考・判断 >

		よう。)	<p>分類した結果から自分の興味や関心の傾向がわかったが書き方や表現の仕方がわからない生徒には、教科書 p 48 の金沢の例を読ませて、参考にさせる。</p>	<p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>課題の根拠が、川場村の特色を追求するのにふさわしいものである。</p>
予想仮説の設定	2	課題に対する仮説を考える。	<p>自分の立てた課題について様々な観点から予想を考えさせる。</p> <p>仮説を予想できない生徒には、他の生徒の考え方を知らせ、考えのヒントとさせる。</p> <p>意見交換をさせて、様々な見方に立って予想を考える。</p>	<p>1つの観点だけでなく、複数の観点から事象をとらえ、仮説を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然条件 ・社会条件 ・文化条件 <p><思考・判断></p>
		追求する内容や方法を検討して、調査計画を立てる。	<p>仮説を検証するのに適切な内容と方法を考えさせ、調査計画を立てさせる。</p> <p>調査計画を立てられない生徒には、他の生徒の調査計画を見せ、立て方のヒントを与える。</p> <p>まとめ方や発表の方法まで考えて調査の計画を考えさせる。</p>	<p>(ワークシート)</p> <p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>仮説の設定だけでなく、まとめ方や発表の方法まで考えにいられて調査計画を考えられる。</p>
調査活動	3	調査計画にもとづいて、調査活動に取り組む。	<p>調査の目的や内容をはっきりとさせ、校外での活動の場合には礼儀や交通安全にも配慮させる。</p> <p>調査の見通しや調査方法が分からない生徒には教科書の読み取り資料 (p 52・53) を読ませ、参考にさせる。</p> <p>調査段階で新たに出てきた疑問点や調査資料についても調べさせる。</p>	<p>検証に必要な資料を効率的に収集できる。</p> <p><技能・表現></p> <p>(レポート、ワークシート、自己評価)</p> <p>自らの判断で、適切な資料が選択、収集できる。</p>

検 証 ・ ま と め	3	調査結果をレポートにまとめ、仮説の検証をおこなう。	<p>分布図や統計資料などを使って、調査結果や検証の分析をレポートにまとめる。</p> <p>検証の仕方やまとめ方がわからない生徒には、教科書 p 54 の「Check up」や p 55 の「結果と分析」を参照させる。</p> <p>発表用紙にレポートの内容を簡単にまとめ、発表の準備をさせる。</p>	<p>収集した資料を使ってレポートに調査結果や検証の分析をまとめている。</p> <p>< 知識・理解 > (レポート、発表用紙) レポートの内容を統計資料や分布図を使って、効果的にまとめ、分かりやすく発表している。</p>
		レポートの内容を学級で発表する。	<p>発表用紙を課題を立てた理由から調べた結果までを簡潔にまとめさせ、</p> <p>発表が苦手な生徒には、発表順を工夫して、他の生徒の発表の仕方を参考とさせる。</p>	

6、本時の学習

(1) 本時の目標

自分の疑問点や調べてみたい内容を整理して、社会的見方にあった学習課題を設定する。

(2) 準備

ア、教師 教科書、学習テーマを書いた模造紙、

イ、生徒 教科書、ワークシート

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点・支援	評価項目(観点・方法)
1 本時の学習のめあてをつかむ。	5分	<p>指導上の留意点・支援</p> <p>は努力を要する生徒への支援の手立て</p> <p>は発展的な支援</p>	<p>評価項目(観点・方法)</p> <p>は充分満足できる状況のキーワードやセンテンス</p>
2 「特色」について	5分	<p>本時の学習テーマ「川場の特色を調べて、世田谷の人たちに伝えよう。」を意識的に強調し、課題作りの意欲・関心を高める。</p> <p>事例写真を使って、「特</p>	

